

健康診断結果を見ながら、 家族性高コレステロール血症(FH)の可能性が あるかどうか判定してみましょう!

- ◆日本動脈硬化学会(理事長:りんくう総合医療センター院長山下静也)から動脈硬化によって起こる病気(狭心症・心筋梗塞・脳梗塞・血管狭窄)を予防するための診断と治療の基準、「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」が作成されています
- ◆通常の脂質異常(高脂血症)の治療基準も記載されていますが、家族性高コレステロール血症の診断基準も掲載されています。それをもとに、家族性高コレステロール血症が隠れていないかどうか調べてみましょう!
- ◆以下の3つの項目について、当てはまるものにチェックを入れてみてください!

その1 **LDL(悪玉)コレステロールが180mg/dl以上**

健康診断や人間ドックの結果を確認してみてください。
もし表示がない場合で総コレステロールで表示されている場合は以下の計算が可能です
(LDLコレステロール = 総コレステロール - HDLコレステロール - 中性脂肪 / 5)

その2 **アキレス腱が他の人に比べて太い**

かかるとに力がかからない状態で触ってみてください

手の甲・ひじ・ひざなどの腱が他の人に比べて太い、黄色腫(黄色いしこり)がある

軽く指を握ると外に突出する黄色腫が観察できることがあります、触って確認します
(日本動脈硬化学会編脂質異常症治療ガイドより)

その3 **「家族性高コレステロール血症」であると言われた、または「男性55歳未満、女性65歳未満で狭心症・心筋梗塞」の家族がいる**

家系図を描きながら、ひとりひとりをイメージして描いてみましょう

- ⇒ 3つのうち2つ以上にあてはまる方は、家族性高コレステロール血症の可能性があります!
- ⇒ 若いうちから脳梗塞や心筋梗塞・狭心症などの血管の病気を起こさないため、ぜひ精密検査を受けてください!

LDLコレステロールが高いと言われたあなた、 家族性高コレステロール血症 (Familial Hypercholesterolemia, FH) ではないですか??

- ◆コレステロール値の高い人のなかに、家族性高コレステロール血症の方がいらっしゃる(日本人では200人に1人程度と言われています)
- ◆40-50代から脳梗塞や心筋梗塞・狭心症などの血管の病気を起こす可能性があり、早期発見としっかりとした治療が必要です!

アレクサンドル・ダーレオーエン選手をご存知でしょうか。ノルウェー代表として平泳ぎでオリンピック選手になった水泳選手です。2008年の北京オリンピックに出場し、1000m平泳ぎの予選で当時のオリンピック記録(59秒41)で一位通過し、連覇を目指す日本の北島康介選手を脅かすダークホースとして世界に躍り出ました。しかし残念ながら決勝では北島康介選手には届かず、銀メダルに輝きました。これはノルウェーでは初のオリンピックメダルであったそうです。その後も北島選手をライバルとして多くの試合に参戦し、2012年のロンドンオリンピックでは金メダルの最大候補と言われるほど、多くの試合で優勝を達成しています。

ところが、ロンドンオリンピックでのメダルに向けて合宿していたアメリカで、浴室で突然死しているところが発見されました。26歳という若さでした。ノルウェーに初めてのメダルをもたらした国の英雄の葬儀は、国営テレビで中継され、多くのノルウェー国民が涙を流し、その冥福を祈りました。

若いオリンピック選手の突然死は、その原因を追求しないことには納得できないかと思えます。この時この突然死の原因を探るために検視(法医学解剖)がなされましたが、1度目では原因がわからず、2度目が実施された

ことにより、原因が血管にコレステロールが溜まって血管をふさいでしまう「アテローム性動脈硬化による動脈閉塞(へいそく)」であったことがわかりました。さらに、この解剖を担当した監察医は、ダーレオーエン選手の家族を調べたところ、おじいさんが同じく42歳という若さで心臓病で急死していたことがわかりました。

毎日の食事もよく考えられ健康に配慮したものをとり、また運動もこれ以上ないほど毎日繰り返している、しかも20代と通常ではこのような血管の病気になるような年齢ではないオリンピック選手がなぜ動脈硬化になったのでしょうか?この原因として強く疑われるのが「家族性高コレステロール血症(Familial Hypercholesterolemia、略してFH)」という病気です。この病気の最大の特徴は、悪玉コレステロールと言われるLDLコレステロールが高くなります(およそ180mg/dl以上)。健康診断でLDLコレステロールが高いと言われることは比較的良好であることではないかと思われず。しかしこの家族性高コレステロール血症ではそれだけではなく、アキレス腱をはじめとした腱へのコレステロールの蓄積である黄色腫(おうしよくしゅ)、さらに家族に同じく家族性高コレステロール血症や若いうちからの心血管疾患(心筋梗塞や狭心症・心臓突然死)などを起こす可能性があります。



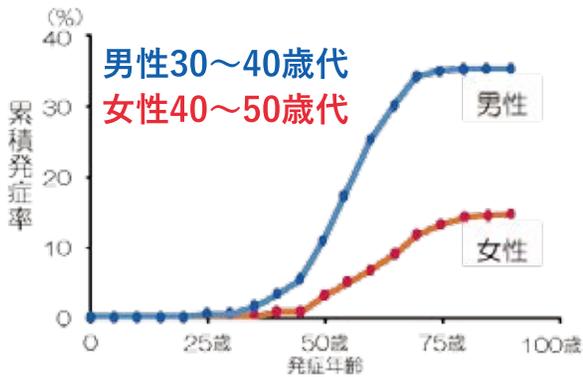
FHの多くは常染色体優性遺伝であり、どちらかの親が変異した遺伝子を持つとその子は50%の確率で遺伝子を持つことから、高い割合で家族にもFHが見られます

FHの原因となる主な遺伝子変異

LDL受容体の異常 (機能が失う異常) (約50%)	PCSK9蛋白の異常 (機能が強く発現) (約7%)
LDL受容体の異常 +PCSK9蛋白の異常 (約39%)	原因不明 (約4%)

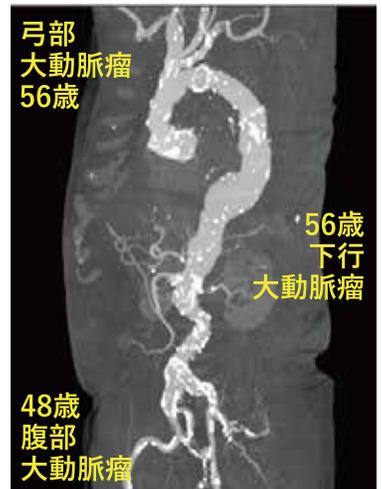
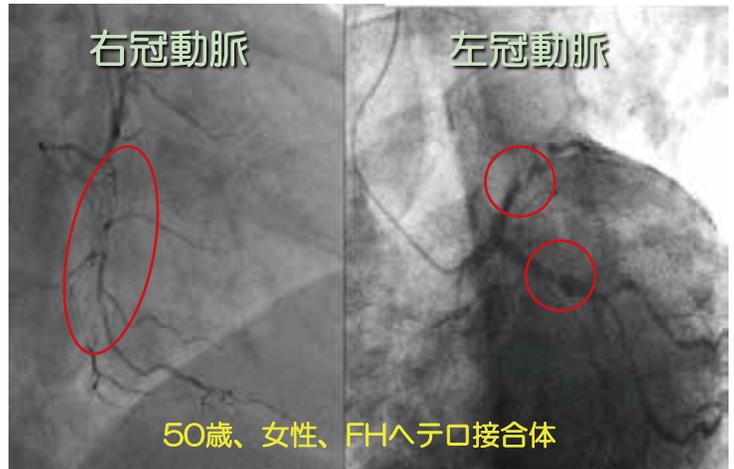
(Hori M, et al. J Clin Lipidol in press)

家族性高コレステロール血症では若いうちから 狭心症・心筋梗塞を起こします



【対象・方法】1996～1998年のデータベースを基にした厚生労働省原発性高脂血症調査研究にて確認されたヘテロ接合体患者641例の冠動脈疾患累積発症率を検討した。

(J Atheroscler Thromb 2014;11:146-151)



(日本動脈硬化学会編脂質異常症治療ガイドより)

- ⇒若いうちから心筋梗塞・狭心症や脳梗塞、動脈瘤などの血管の病気を起こさないため、ぜひ精密検査を受けてください!
- ⇒家族性高コレステロール血症の治療は、通常のコレステロールを下げる内服薬を中心に必要に応じて注射薬を用いてLDLコレステロール値をより強力に低下させます(食事・運動療法ももちろん大事ですがそれだけでは不十分です)
- ⇒コレステロールの治療のみならず血管病変の進行を確認する必要もあり、専門医の診断と治療が必要です

まずはかかりつけのお医者さんにご相談ください! FHの確認のためにも、健康診断を受けてください!

りんくう総合医療センターでは、高脂血症専門外来を開設しています
水曜日午前(病院長山下静也)・木曜日午前(循環器内科部長増田大作)
(かかりつけ医からの紹介状が必要です)

家族性高コレステロール血症や動脈硬化をきたす病気、
高脂血症(脂質異常)についての情報は・・・



日本動脈硬化学会ホームページへ
<http://www.j-athero.org/index.html>



動脈硬化や家族性高コレステロール血症の情報、動脈硬化を防ぐ食事・運動のすすめかた、今後10年間の狭心症の発症リスク計算ツールなど提供しています!

無料で入手できる
スマートフォンアプリも提供しています!

冠動脈疾患
発症予測ツール
これりすくん

